

参考

地域経済循環創造事業交付金（ローカル10,000） 交付決定事業一覧（12月9日受付分）

（単位：千円）

団体名		事業名	交付予定額	融資予定額	金融機関	地域課題	事業概要	新規性・モデル性・公益性
1	北海道 積丹町	積丹産ボタニカルを活用したサウナ滞在観光の開発	25,000 （国費 18,750 地方費 6,250）	25,000	北洋銀行	積丹町の観光は、ウニ漁の漁期である7月、8月に集中し、その他の期間は閑散とする特徴があり、事業収入面、雇用面からも年間を通じた観光客の集客への取組が求められている。	岬の湯しゃこたんは、観光客が年間約100万人が訪れる積丹町にあって、年間8万人程度が訪れる町営温泉入浴施設であったが、令和4年4月1日より民間事業者(株)SHAKOTANGOが譲渡を受け、運営を開始した。 地域課題を解決するため、断崖の上に建つ「岬の湯」の絶景、半島地形の豊かな植生、さらには隣接するジン蒸溜所や秋冬の豊富な農水産物の利用を総合化できる「ボタニカルサウナ」を核とした滞在観光の開発を実施し、通年で町内消費の活性化や経済循環に取り組む。	積丹町産ボタニカルを使用したジンの残渣を活用したサウナ用ロウリュウ水による「積丹産ボタニカル」を切り口としたサウナ滞在による地域商品・サービスに消費される仕組みを目指している。 「岬の湯しゃこたん」の取組は、温泉施設を温浴機能のほか、地元資源を生かした特産品やサービスの提供、地域住民も見守りや交流の場、観光情報の発信拠点、沿岸集落の避難場所、さらには、ジンや体験型観光等の官民連携事業のパッケージ観光の体現場所、若者たちの通年雇用や創業・起業等の学びの場、広域観光の中継拠点として期待されるものであり、あらゆる公共課題の解決を図る場所として考えている。
2	北海道 長沼町	馬追の湧水と長沼町産の農作物を用いた化粧品開発・製造・体感施設整備事業	50,000 （国費 33,333 地方費 16,667）	100,000	北洋銀行	長沼町は日帰り型の観光がメインであり、町内観光入込客数に対し町内宿泊客数の割合が約1.5%となっており、全道平均の22.7%から見ても極端に低く、通過型観光から宿泊型観光へのシフトチェンジが地域課題となっている。	長沼町内で生まれた自然素材と天然の湧水を用いた化粧品の開発と全国販売、長沼町の豊かな自然の中を全身で味わっていただけの宿泊施設を整備する。 化粧品原料となる自然素材には本来規格外として廃棄される部位を仕入れて活用したり、地元や道内で生まれる間伐材を施設の壁や家具、またストーブで薪として使用したりするなど、自然から生まれる原料を有機的に活用する循環型の生活のあり方を体感いただける施設整備を行っていく。	今回、株式会社シロが長沼町産の自然素材を用いた製品開発から販売において行う「地元産の自然素材の中で、市場に流通させられず処分されている部分」に着眼・原料としての価値を見出し、アップサイクル製品として開発～製品化する取り組みと、その製品を实际使用いただくための宿泊施設をセットとして考え、地域経済を循環させる取り組みは、一次産業が行われているあらゆる自治体で「本来処分せざるをえない部分の価値化」及び「新たな6次産業化のかたち」を検討するモデルとなりうる。 本事業の蒸溜体験・化粧品体感施設（宿泊施設）は宿泊のきっかけを増やし、周遊いただくことで町内観光消費額を増やすことを目的とする事業であり、町内飲食施設等との親和性も高く、地域経済を循環させる取組みとなると捉えている。

3	山口県	周南市	湯野地域観光振興拠点施設整備事業	35,000 〔国費 17,500 地方費 17,500〕	52,500	山口銀行	観光客の減少と共に事業者の撤退・廃業が相次ぎ、働く場所を失った生産年齢人口の転出や高齢化の進行が顕著である。それゆえ、地域内のマンパワーが不足し、コミュニティ活動にも支障をきたしている。	令和3年度で廃止された旧国民宿舎を改修し、日帰り入浴施設を中心とした観光拠点施設を整備し、湯野地域の観光振興に資する事業を行うほか、その収益を活用し地域課題の解決に資する事業を行い、地域活性化を図る。	地域住民が主体で観光施設を譲り受け、観光事業、賑わい創出や地域課題を解決するための事業に資する活用事例はほとんど例がなく、住民が主役となって地方創生を図っていくという点で新規性が非常に高い。 さらに、地域住民が、地域の誇りである「温泉」を核として観光振興や地域活性化事業を行うことで、住民の地域への愛着が増し、地域内の定住化の促進が期待できる点でモデル性が高い。 温泉施設を地域の手で蘇らせ、柔軟な料金設定や他館との同時仕入れなどによるコストカット、季節ごとの様々な集客イベントといったノウハウを活用しながら、効率的な運営や資源の磨き上げを行うことで、市営時代以上に温泉地としてのブランド力を向上できる。
---	-----	-----	------------------	---	--------	------	---	--	--

国費 69,583
地方費 40,417